

活動報告書

報告者氏名：柏裕美

所属：茨城県立北茨城特別支援学校

記録日：平成26年2月27

日

【対象児(群)の情報】

○学年

小学部5年

○障害名

知的障害、肢体不自由（二分脊椎）

○障害と困難の内容

[言語] 母音による発音が主で、経験したことや思っていることを伝えきれていない。（コミュニケーション）

[環境] 医療的ケアや安全確保の点から、友達よりも教師とのかかわりが多い。（コミュニケーション）

[運動] 力の加減や動きの調整をすることに注意を向けなければならない状況が多い。（微細運動・機器の操作）

【活動目的】

○当初のねらい

経験したことや思っていることを伝えきれていない対象児に、「自分から相手に伝えること」ができるきっかけをつくりたいと考えていました。「自分から相手に伝えられない」背景には、対象児は普段から教師をはじめとする大人とのかかわりが多く、大人側が周辺の状況を察して対象児が伝えようとするのを押し量り、言葉を補ってしまうことから、自分の言葉で伝えることへの経験が不足しているように観察されました。そのため、現在の大人に囲まれた状況から、友達と一緒に過ごす環境の調整が必要と考えました。また、伝える経験の少なさの背景に、構音に障害があるため発した言葉が直接対象に伝わらないために消極的で周囲に依存的になりがちであることも起因していると推察いたしました。伝えることに困難さを感じ消極的になりがちである対象児が、iPadによって友達とかかわる時間を多くするための周辺環境を調整すること、伝えることを支援することで自分から伝える行動がどのように変化するかを観察することを目的としました。

○実施期間

平成25年5月～平成26年3月

○実施者

柏裕美

○実施者と対象児童との関係

学年主任

【活動内容と対象児(群)の変化】

○対象児(群)の事前の状況

A. 周辺環境について

- ①タブレット式端末の使用経験はありませんでしたが、PCを使う経験はありました。キーボード操作が困難で、大人と一緒にいる場合のみ利用する状況でした。
- ②大人と過ごす時間が多く対象児もそれが自然なことだと感じていました。医療的ケアなどもありますが、その他の休み時間に友達と過ごすこともあまり見られない状況でした。






B. 伝えることについて

- ①伝えたいときに、近くにいる人の腕を引き、受け手が前後の文脈を読み取ることが多い状況でした。
- ②コミュニケーションブックを活用していましたが、内容も標準的に分類されているので、伝えたい言葉を探すために時間を必要とし、また伝えられることも限定的でした。
- ③出来事を詳しく伝えることに困難があることから、学校で学習したことを般化する機会が限られていた状況でした。






○活動の具体的内容

A. 周辺環境について

何のために？	何を？	どの場面で？	どんなふうに使った？
自分で使えるようになる	iPad 	家庭・学校	・使い方や約束事について親子でレクチャーを受けてもらい、毎日家庭に持ち帰り、家庭と学校で使用しました。
友だちと過ごす時間が多くなる	Skype 	学校(休み時間)	・医療的ケアが終わってから、外で遊んでいる友達とオンライン通話をして友達を遊びに誘いゲームアプリで遊びました。
	学習 	学校(国語)	・国語の際に、漢字の学習アプリを使って、「きそがため」に挑戦し、「力だめし」では友達と競い合ったりしました。

B. 伝えることについて

何のために？	何を？	どの場面で？	どんなふうに使った？
自分で伝えることができる	ICコミュニケーション 	校外学習(買い物) 家庭・学校	・買い物の際に、アプリを使って「〇〇がほしいのですが」と自分で登録したカードを見せるなど、校外の人に伝えました。 ・対象児が自分でカードを登録し、「コミュニケーションデジタルブック」をつくりました。
出来事を詳しく伝えることができる	カメラ 	学校(帰りの会) 家庭⇄学校	・撮影したものを帰りの会で友達に見せたり、家庭や学校の出来事を写真や動画に撮影してやりとりしたりしました。
	Zip 	家庭⇒学校	

カメラ

(朝の会)

・学校で撮影した写真にデコレーションしてコメントし、学校で発表しました。

○対象児（群）の事後の変化

A. 周辺環境について

①iPad を使う

・教師が基本的な操作をレクチャーした後は、自分でアプリを使ったりメールをしたりする

ようになりました。フリック入力とワードの候補を活用することで、文字入力がスムーズで

②iPad を囲んで友達と過ごす

早くなっていきました。

・休み時間にスカイプで友達を誘い、一緒にゲームをしたり、動画配信を見て楽しんだり、iPad の使い方を教えたりする行動が見られました。



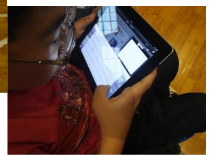
「こうやって使うんだよ」



「ぼくが見つけたアプリおもしろい？」



「ちょっと開けて」「いいよ」



B. 伝えることについて

①自分で伝える

・教師が言葉で補うことをやめ、iPad を手掛かりに自分で伝える機会を多くしました。初めは、つい教師に助けを求める姿がありましたが、iPad に必要なカードを登録して持ち歩くことで、自分で伝えることができました。

②伝えるためのブックを自分で作る

・自分で「伝えられそう」と実感したことで、アプリを活用し始めました。カードを自分で追加して「コミュニケーションデジタルブック」を作成する行動が見られました。

③伝えたいことを写真や動画におさめる

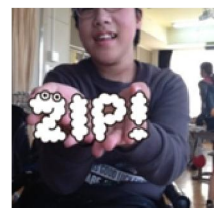
・家族に写真や動画を撮ってもらい、月曜日の朝の会や学期初めに休みの日の様子を紹介する姿が見られました。



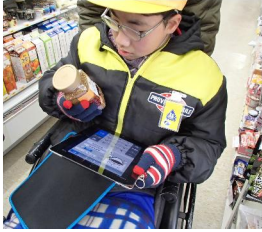
友達とお店に入る前に「今日はこれを買うんだよ」



買い物に行く前に「今日買うものを急いで登録しよう」



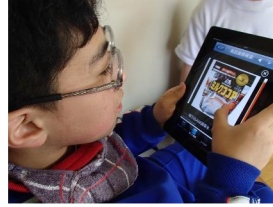
ZIP カメラでデコレーション



お店の人に聞いて自分で買いました



カードの登録はもちろん、項目別分類も自分でしました。



「使いやすいブックを自分で作ろう」



「25日にはケーキを作りました」



「お掃除もがんばりました」

【報告者の気づきとエビデンス】

○主観的気づき

A. 周辺環境について

周囲の友達も「iPad を使ってみたい」という気持ちもあり、対象児が使い方を一歩リードすることで、これまで「友達の活動にあとから混ぜてもらおう」、「誰かにやってもらおう」という状況から、友達を「活動に誘う」「教える」などの状況へと変化していきました。その際のかかわりの中には、大人を必要としない状況が生まれました。

休み時間中に教師は、対象児の移動支援や安全を見守る役割が中心に変化していきました。教師が対象児を「子どもたちだけの世界」にアクセスさせたいという共通認識をもったことも、環境の改善につながったのではと推察しました。

B. 伝えることについて

IC コミュニケーションのアプリを学校内で活用する頻度は、これまでのコミュニケーションブックを使用する頻度より少ないと感じた部分もありました。理由としては、長い間使ってきたツールからの切り替えに時間がかかったためと推察しました。

一方、「買いものをする」など使う「場面」と「目的」がはっきりしている方が、活用イメージがわいたようでした。実際に、校外で活用してみることで「伝わった」と体感し、活用への弾みもつきました。自分でカードを増やしながらかommunication デジタルブックを作り、活用することによって扱いやすさを感じ、次第に iPad の活用割合が高くなってきました。

画像や動画の活用は、対象児が本当に伝えたいことを伝えるための、補助的役割を担うものとなりました。画像を撮る際にも、保護者と対象児の中で「ここを知らせたい」というはっきりとした意思が読み取れ、主体的に活用する姿が見られました。その結果、伝えることに積極的な態度が形成されていったのではないかと推察しました。

○エビデンス(具体的数値など)

表 1 に、月曜日の朝の会で対象児が発表を行った日を回数で表しました。発表の際に、画像を活用した日を回数で表しました。iPad の活用が慣れるに従い、「画像を用いると伝わりやすい」と感じたようで、活用しながら発表する機会が見られるようになってきました。(ただし、写真を撮れない日などもありました)

	iPad 導入前(4・5月)	iPad 導入直後(6・7月)	iPad 活用期(11・12・1月)
画像を活用した回数	0(0%)	2(40%)	7(87.5%)

発表回数	0(0%)	3(60%)	8(100%)
月曜日の回数	5(100%)	5(100%)	8(100%)

※なお、9月～10月にかけて入院による欠席日を含めない。

表2にICコミュニケーションのカード追加の内容について項目別にまとめました。本当に必要としている言葉を一部ですが知ることができ、これまでのコミュニケーションブックにないものは何かを読み取ることもできました。また、好きなものについて詳細に登録し、何度も見返す行動が見られました。コミュニケーションに限らない場面でもアプリを活用している点は、コミュニケーションブックのこれまでの活用状況と大きな違いが見られました。

対象児が分類した項目	クラス の友達	エレベーター	自動車	イオン	学校	電車	駅	DS	ゲーム
IC追加数	8	16	36	6	3	10	21	3	25
ブック比較	×	×	△	×	△	△	×	×	△

対象児が分類した項目	天気	野菜	おやつ	寿司	飲み物	【記号の説明】
IC追加数	5	12	3	8	16	○：ブックと差異がないもの △：ブックに比べて品名など具体的であり、数的に多い
ブック比較	○	○	△	○	△	×：ブックには記載がない、又はシンボルのみ

○その他エピソード

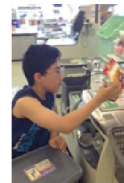
①クックパッドの活用(図1)

校外学習で食べたお好み焼きが作りたいと思い、クックパッドで検索をして作り方を調べました。夏休みに、実際に材料を買いに行き作って食べた様子を動画や写真で紹介してくれました。

図1



日本最大の料理サイト
COOKPAD
http://cookpad.com

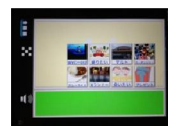


作り方検索 → 材料を買う → 作ってみる

②コミュニケーションカードを作る(図2)

カードを増やしていく際に、カードの名前(ひらがな)と画像の取り込みは対象児が行い、音声を友達に録音してもらっていました。友達に協力を得ながら作る発想に柔軟さを感じました。

図2



自分で文字入力 友達が
画像を取り込む → 音声入力 → カード完成

③コミュニケーションカードをもとに文字の学習(図3)

カードを作った時に、例えばお寿司の「ホタテ」を「ポタテ」と登録したりすることもありました。対象児が聞き取った言葉を文字で表すことで聞き違えているものがある、ということに気がきました。そこで、学習の際に修正していくことに活用しました。対象児にとってニーズのある言葉をもとに行うため、意欲的に楽しみながら学習する様子が見られました。

図3



【今後の見通し】

iPadは様々なツールをまとめて携帯することが可能で、更にコミュニケーションアプリは自分の使いやすい

ように編集し直すことができる、という点が、タブレット式端末ならではの良さと思いました。対象児にとっては、取扱いしやすく、今後の生活や学習の中で活用が有効と考えています。

この一年の活用を基盤に、以下の3つの具体的な場面について今後活用の可能性を記します。

1. 生活全般

ICコミュニケーションと写真機能を中心に、伝えるためのツールを継続して活用していくことで伝える意欲と技術の向上を目指せるのではないかと考えています。

2. 学習場面

生活に必要な言葉を、対象児のニーズに応じて学習していくことができるのではないかと考えています。

3. 行事・イベント

この春はいよいよ6年生になります。楽しみにしている修学旅行もあるため、SNSを活用し、自ら情報を発信する

こともできるのではと考えています。

他の児童よりも、大人の支援が多い中で生活する対象児ですが、iPadの活用も含めながら本人の伝えたい気持ちを向上させ、伝えることに確かな自信をもち、将来の社会生活を豊かにするための、手掛かりとなることを願っています。